

近畿厚生局長 殿

京都大学医学部附属病院
病院長 三嶋 理

印

京都大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3の規定に基づき、平成22年度の業務に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	122.4人
--------	--------

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法 → 別紙参照(様式第12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績 → 別紙参照(様式第13)

7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

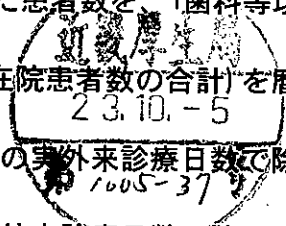
職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	589人	101.3人	690.3人	看護補助者	64人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	24人	0.2人	24.2人	理学療法士	31人	臨床検査技師	80人
薬剤師	69人	0.5人	69.5人	作業療法士	9人	臨床衛生検査技師	0人
保健師	0人	0人	0.0人	視能訓練士	8人	その他	0人
助産師	32人	0人	32.0人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧	0人
看護師	917人	29.8人	946.8人	臨床工学技士	18人	医療社会事業従事者	7人
准看護師	3人	0人	3.0人	栄養士	0人	その他の技術員	132人
歯科衛生士	2人	2.3人	4.3人	歯科技工士	3人	事務職員	326人
管理栄養士	13人	0人	13.0人	診療放射線技師	60人	その他の職員	107人

- (注) 1 報告を行う当該年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

8 入院患者、外来患者及び調剤の数
歯科、矯正歯科及び小児歯科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	922.8人	17.2人	940.0人
1日当たり平均外来患者数	2,566.3人	101.7人	2,668.0人
1日当たり平均調剤数	1,810.00剤		

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者数延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。



高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
インプラント義歯	0人
顎顔面補綴	0人
超音波骨折治療法	1人
セメント固定人工股関節再置換術におけるコンピュータ支援フルオロナビゲーションを用いたセメント除去術	1人
先天性難聴の遺伝子診断(他の保険医療機関に対して検体採取以外の業務を委託して実施する医療機関)	10人
内視鏡的大腸粘膜下層剥離術	4人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注1) 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。
(注2) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
生体内吸収性高分子担体を用いた塩基性線維芽細胞増殖因子による血管新生療法	1人
脂肪萎縮症に対するレプチン補充療法	5人
重症低血糖発作を伴うインスリン依存性糖尿病に対する心停止ドナーからの膵島移植術	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注1) 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注2) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	急性骨髄性白血病に対する樹状細胞を用いた免疫療法	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 有効な治療法のない急性骨髄性白血病患者に対し、自己白血病細胞またはWT1ペプチドを抗原として添加した自己樹状細胞を投与して抗腫瘍免疫反応を誘導し、安全性と有効性を検証する探索的臨床研究。			
医療技術名	家族性パーキンソン病の遺伝子診断	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要 上記疾患の疑いのある患者等のうち希望される方の血液より遺伝子解析、診断を行なう			
医療技術名	家族性てんかんの遺伝子診断	取扱患者数	25人
当該医療技術の概要 上記疾患の疑いのある患者等のうち希望される方の血液より遺伝子解析、診断を行なう			
医療技術名	家族性脊髄小脳変性症の遺伝子診断	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要 上記疾患の疑いのある患者等のうち希望される方の血液より遺伝子解析、診断を行なう			
医療技術名	生体肝移植	取扱患者数	65人
当該医療技術の概要 生体ドナーから肝臓の外側区域、左葉、あるいは右葉を用いて行う肝移植。脳死肝移植が発展しないわが国を中心に発展してきた。			
医療技術名	脳死肝移植	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 脳死ドナーからの肝臓を用いる肝移植。1999年からわが国で始まった。生体肝移植の経験を生かして、肝臓を分割して2人のレシピエントに移植を行う分割肝移植も発達している。			
医療技術名	産科出血に対する子宮動脈塞栓術	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 産科出血は突然に大量出血となり、急速にDICに陥る恐れがあるため、手術を行うことも大きなリスクを伴う。子宮動脈塞栓術はそのような出血を制御するために非常に有用な手段である。			
医療技術名	体外受精での着床不全症例における自己リンパ球内膜投与	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 体外受精技術の進んだ現代にあっても、3回以上の形態良好胚移植にて妊娠に至らない着床不全の治療法は確立されていない。自己リンパ球内膜投与はそのような着床不全症例に対する有効な治療法となりうる。			
医療技術名	腹腔鏡下子宮体癌根治術	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 患者への侵襲の少ない内視鏡下手術の適応を悪性腫瘍に広げる試みを行っている。			
医療技術名	腹腔鏡下前立腺全摘術	取扱患者数	23人
当該医療技術の概要 腹腔鏡を利用して前立腺を切除する低侵襲性手術			
医療技術名	腹腔鏡下腎部分切除術	取扱患者数	7人
当該医療技術の概要 腹腔鏡を利用して腎を部分切除する低侵襲性手術			

医療技術名	単孔式腹腔鏡下副腎切除術	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 臍周囲の小さな切開創のみをあけ、ここから副腎を摘出する超低侵襲性手術			
医療技術名	ホルミニウムレーザー前立腺核出術	取扱患者数	21人
当該医療技術の概要 レーザーを利用した出血の少ない低侵襲性前立腺肥大症手術			
医療技術名	経鼻内視鏡下頭蓋底腫瘍手術	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 従来開頭手術が必要であった頭蓋底腫瘍手術において、イメージガイダンス下に経鼻内視鏡下に腫瘍を摘出し、侵襲の軽減と安全性を向上させる			
医療技術名	乳がん切除後の同時再建術	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要 乳がん切除後にマイクロサージャリー技術を用いて乳房の再建を行う			
医療技術名	頭頸部悪性腫瘍切除後のマイクロサージャリーによる再建術	取扱患者数	12人
当該医療技術の概要 頭頸部の悪性腫瘍切除後にマイクロサージャリー技術を用いて種々の再建を行う			
医療技術名	薬物動態に関わる遺伝子の多型解析	取扱患者数	80人
当該医療技術の概要 クロバザム、ボリコナゾールなどの体内動態を予測するため、患者の血液からDNAを精製し、遺伝子型を判定する。			
医療技術名	保険算定外の薬物血中濃度測定	取扱患者数	270人
当該医療技術の概要 シロリムス、ミコフェノール酸、イトラコナゾール、経口分子標的抗がん薬など、治療上必要であるが保険算定外の薬物について、血中濃度測定および解析を行う。			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ベーチェット病	90人	・膿疱性乾癬	8人
・多発性硬化症	59人	・広範脊柱管狭窄症	8人
・重症筋無力症	67人	・原発性胆汁性肝硬変	74人
・全身性エリテマトーデス	406人	・重症急性膵炎	4人
・スモン	2人	・特発性大腿骨頭壊死症	46人
・再生不良性貧血	38人	・混合性結合組織病	48人
・サルコイドーシス	89人	・原発性免疫不全症候群	13人
・筋萎縮性側索硬化症	20人	・特発性間質性肺炎	85人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	277人	・網膜色素変性症	135人
・特発性血小板減少性紫斑病	32人	・プリオン病	0人
・結節性動脈周囲炎	48人	・肺動脈性肺高血圧症	12人
・潰瘍性大腸炎	164人	・神経線維腫症	18人
・大動脈炎症候群	76人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・ビュルガー病	14人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	5人
・天疱瘡	16人	・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	9人
・脊髄小脳変性症	29人	・ライソゾーム病	0人
・クローン病	112人	・副腎白質ジストロフィー	2人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	24人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0人
・悪性関節リウマチ	45人	・脊髄性筋萎縮症	2人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	109人	・球脊髄性筋萎縮症	0人
・アミロイドーシス	9人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	8人
・後縦靭帯骨化症	36人	・肥大型心筋症	4人
・ハンチントン病	3人	・拘束型心筋症	0人
・モヤモヤ病(ウイリス動脈輪閉塞症)	120人	・ミトコンドリア病	4人
・ウェグナー肉芽腫症	13人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	10人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	79人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	0人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	15人	・黄色靭帯骨化症	0人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	4人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、ADH分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	60人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

1996

27

555

高度の医療の提供の実績

5 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・膀胱水圧拡張術	・
・強度変調放射線治療(頭頸部腫瘍、前立腺腫瘍、中枢神経腫瘍除く)	・
・腋窩リンパ節郭清術実施前におけるセンチネルリンパ節同定及び生検	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

主)「施設基準等の種類」欄には、業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

6 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	①. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 ②. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	検査部門;毎日 病理診断部門;毎日
部 検 の 状 況	部検症例数 39例 / 部検率 10.60%

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
新規免疫細胞治療法の開発	門脇 則光	血液・腫瘍内科	11,843,700	補 委 SBIバイオテック(株)
CpGオリゴヌクレオチド(CpG ODN)の抗腫瘍作用及び各種疾患に対する免疫作用の研究開発	門脇 則光	血液・腫瘍内科	13,200,000	補 委 SBIバイオテック(株)
HIV感染者等保健福祉相談事業	高折 晃史	血液・腫瘍内科	1,000,000	補 委 (財)エイズ予防財団
ヒトDCによる寛容誘導機構の解明、粘膜帰巢および寛容誘導特性を備えたヒトDC培養技術の確立	門脇 則光	血液・腫瘍内科	3,900,000	補 委 (独)科学技術振興機構
22-35 科学的・行政的視点を踏まえた、がん細胞免疫療法の開発(平家班)	門脇 則光	血液・腫瘍内科	1,200,000	補 委 (独)国立がん研究センター
樹状細胞における小胞機能のコントロールによる免疫制御法の開発	門脇 則光	血液・腫瘍内科	2,080,000	補 委 基盤研究(C)
間葉系幹細胞におけるHLAクラスⅡ分子発現機構の解明と細胞移植療法への応用	一戸 辰夫	血液・腫瘍内科	1,250,000	補 委 緑越 基盤研究(C)
Vif/APOBEC3Gの相互作用を標的とした新規抗HIV-1薬の開発	高折 晃史	血液・腫瘍内科	2,700,000	補 委 エイズ対策研究事業
特発性造血障害に関する調査研究	高折 晃史	血液・腫瘍内科	2,000,000	補 委 難治性疾患克服研究事業
冠動脈ステントの有効性と長期安全性評価のための臨床的研究	木村 剛	循環器内科	16,500,000	補 委 アポット バスキュラー ジャパン(株)
ナルディライジンの病態生理学的意義の解明と、同分子を標的とした疾患治療薬の開発	木村 剛	循環器内科	33,000,000	補 委 第一三共株式会社
医療機器の不具合評価体制の構築のための支援業務:冠動脈ステントに関する調査の実施	木村 剛	循環器内科	53,884,671	補 委 (独)医薬品医療機器総合機構
代謝制御における新たな鍵分子NRDCの発見:そのメタボリックシンドロームでの意義	西 英一郎	循環器内科	5,980,000	補 委 基盤研究(B)
心筋代謝調節におけるmicroRNAの役割とその制御機構の解明	尾野 亘	循環器内科	1,300,000	補 委 基盤研究(C)
癌化における低分子量GTP結合蛋白質Ralの役割	堀内 久徳	循環器内科	0	補 委 基盤研究(C)
消化管癌に対する内視鏡診断と治療の標準化	武藤 学	消化器内科・内視鏡部	15,000,000	補 委 オリンパスメディカルシステムズ(株)
発症早期の重症急性膵炎における膵血流障害を、簡便かつ正確な診断に有用な手法の研究	千葉 勉	消化器内科・内視鏡部	0	補 委 ギイオソフト株式会社
切除不能進行膵癌(局所進行又は転移性)に対するGemcitabine療法/TS-1療法/Gemcitabine+TS-3併用療法の第Ⅲ相無作為比較試験	千葉 勉	消化器内科・内視鏡部	0	補 委 大鵬薬品工業(株)

小計
18

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
20指-3 消化器悪性腫瘍に対する標準治療確立のための多施設共同研究	武藤 学	消化器内科・内視鏡部	1,000,000	補(独)国立がん研究センター 委
内視鏡的分子イメージングの開発とその臨床応用に関する研究	江副 康正	消化器内科・内視鏡部	780,000	補 委 若手研究(B)
Perfusion CTによる重症肺炎早期肺虚血と血管透過性亢進についての研究	辻 喜久	消化器内科・内視鏡部	1,000,000	補 委 特別研究員奨励費
早期消化管がんに対する内視鏡的治療の安全性と有効性の評価に関する研究-粘膜下層浸潤臨床病期I(T1N0M0)食道がんに対するEMR/化学放射線療法併用療法の有効性に関する第II相試験:JCOG0508	武藤 学	消化器内科・内視鏡部	19,904,000	補 委 がん臨床研究事業
「重症クローン病患者に対するタクロリムス療法」に向けての臨床試験の実施に関する研究	千葉 勉	消化器内科・内視鏡部	53,235,000	補 委 医療技術実用化総合研究事業
食道がん化学放射線療法後局所遺残再発例に対するタラポルフィリンナトリウム(レザフィリン)及び半導体レーザー(PDレーザー)を用いた光線力学療法の多施設第I/II相試験	武藤 学	消化器内科・内視鏡部	73,477,000	補 委 医療技術実用化総合研究事業
パーキンソン病関連タンパク質の機能解析	高橋 良輔	神経内科	0	補 委 (独)理化学研究所
家族性パーキンソン病多重遺伝子変異モデルの製作と解析	高橋 良輔	神経内科	41,217,800	補 委 (独)科学技術振興機構
脳虚血再灌流後の'no-reflow'現象に対するシロスタゾールの治療効果の検討	猪原 匡史	神経内科	3,900,000	補 委 大塚製薬(株)
アミロイド血管症に起因する認知機能障害に対するシロスタゾールの有用性の検討	猪原 匡史	神経内科	0	補 委 大塚製薬(株)
てんかんの診断と治療に関する戦略的医療についての研究	池田 昭夫	神経内科	1,200,000	補 委 (独)国立精神・神経医療研究センター
iPS細胞と剖検脳を用いた筋萎縮性側索硬化症に対する新規治療法の開発	伊東 秀文	神経内科	2,180,000	補 委 (独)科学技術振興機構
脳虚血巣に選択的な薬物送達システムの新規開発	藤田 祐之	神経内科	3,250,000	補 委 若手研究(B)
筋萎縮性側索硬化症におけるマイクログリアの貪食機能評価と抗原処理機構の解明	山下 博史	神経内科	1,950,000	補 委 若手研究(B)
アルツハイマー病におけるシナプス変性のメカニズムの解明	木下 彩栄	神経内科	4,810,000	補 委 基盤研究(B)
神経変性疾患におけるユビキチンプロテアソーム系の関与の解明	高橋 良輔	神経内科	5,330,000	補 委 基盤研究(B)
正常および脳病態下のヒト言語・運動機能の脳内回路動態の解明	松本 理器	神経内科	910,000	補 委 基盤研究(C)
パーキンソン病の病態生理:大脳皮質基底核ループモデルの検討	澤本 伸克	神経内科	1,300,000	補 委 基盤研究(C)
HtrA2ノックアウトマウスにおけるHtrA2基質蛋白蓄積と基底核回路断裂の解析	伊東 秀文	神経内科	1,300,000	補 委 基盤研究(C)

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
脳梗塞患者における経神経性神経細胞変性の病態に関する分子イメージング研究	山内 浩	神経内科	2,080,000	補委 基盤研究(C)
スライプを利用した双方向性患者支援システムの開発	木下 彩栄	神経内科	800,000	補委 挑戦的萌芽研究
融合ナノプローブ薬剤送達システムを用いた脳虚血巣選択的オートファジー制御への挑戦	猪原 匡史	神経内科	2,900,000	補委 挑戦的萌芽研究
経頭蓋的直流刺激法の皮質基底核ループへの影響 fMRI・脳波・PETによる検討	美馬 達哉	神経内科	1,230,000	補委 繰越 基盤研究(C)
神経変性疾患に関する調査研究	高橋 良輔	神経内科	2,000,000	補委 難治性疾患克服研究事業
特定疾患患者の生活の質(Quality of Life, QOL)の向上に関する研究	福山 秀直	神経内科	800,000	補委 難治性疾患克服研究事業
筋萎縮性側索硬化症の病態に基づく画期的治療法の開発	高橋 良輔	神経内科	1,500,000	補委 難治性疾患克服研究事業
筋萎縮性側索硬化症患者由来疾患モデル細胞を用いた病態解明と治療法開発	高橋 良輔	神経内科	39,000,000	補委 こころの健康科学研究事業
疾患特異的iPS細胞を用いた難治性疾患の画期的診断・治療法の開発に関する研究	高橋 良輔	神経内科	10,000,000	補委 難治性疾患克服研究事業
難治性疾患克服研究の評価ならびに研究の方向性に関する研究	高橋 良輔	神経内科	1,500,000	補委 難治性疾患克服研究事業
乳がん患者血清中のN型糖鎖プロファイリング解析の研究	戸井 雅和	乳腺外科	0	補委 (株)三菱化学安全科学研究所, 住友ベークライト(株)
転移・再発乳がんに対するTS-1療法が循環血液中腫瘍細胞数, 血管内皮細胞数, および未熟血管内皮細胞数に及ぼす影響に関する探索的試験	戸井 雅和	乳腺外科	15,000,000	補委 大鵬薬品工業(株)
化学療法抵抗性ホルモン受容体陽性乳癌に対するTS-1術後療法に関する研究	戸井 雅和	乳腺外科	7,150,000	補委 大鵬薬品工業(株)
早期乳癌センチネルリンパ節検索における、RI法(色素法との併用を含む)と比較したICG蛍光法の臨床的有用性の検討	戸井 雅和	乳腺外科	13,500,000	補委 浜松ホトニクス株式会社
JBCRG-10:手術可能なHER2陽性乳がんに対するTrastuzumab+Cyclophosphamide+Docetaxelを含む術前化学療法のランダム化第II相比較試験	戸井 雅和	乳腺外科	0	補委 一般社団法人JBCRG
ヒト脂肪組織由来幹細胞を用いた乳房再建のための脂肪組織再生	辻 和香子	乳腺外科	1,170,000	補委 若手研究(B)
癌患者における血中循環癌細胞の特性解析と癌転移動態の分析に関する研究	戸井 雅和	乳腺外科	5,720,000	補委 基盤研究(B)
乳癌のホルモン療法施行時における細胞内エネルギー調節に関する研究	上野 貴之	乳腺外科	1,300,000	補委 基盤研究(C)
高分解能・高感度型乳腺用PET装置による乳癌の診断	上野 貴之	乳腺外科	50,000	補委 分担 基盤研究(C)

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
光超音波マンモグラフィにおける乳がん診断基準の整備と高機能化のための光帯域PATプローブの開発	戸井 雅和	乳腺外科	58,749,000	補委 医療技術実用化総合研究事業
抗がん剤効果予測による乳がん患者の再発リスク抑制と毒性軽減および医療経済負担低減に関する検証的研究	戸井 雅和	乳腺外科	15,810,000	補委 がん臨床研究事業
臍島移植用コラゲナーゼ及びその溶媒の研究と開発	上本 伸二	肝胆膵・移植外科	0	補委 株式会社ニッピ和光純薬工業株式会社
生体部分肝移植における次世代免疫抑制療法の開発	上本 伸二	肝胆膵・移植外科	30,000,000	補委 アステラス製薬株式会社
シロスタゾールの肝線維化抑制効果に関する基礎的検討	秦 浩一郎	肝胆膵・移植外科	0	補委 大塚製薬(株)
次世代の移植肝灌流保存法の開発に向けた至適条件の網羅的解析	秦 浩一郎	肝胆膵・移植外科	8,060,000	補委 若手研究(A)
肝移植におけるスタチン系薬剤のグラフト機能保護効果に関する研究	飯田 拓	肝胆膵・移植外科	2,470,000	補委 若手研究(B)
iPS細胞から機能性肝細胞への分化誘導法の確立;細胞移植治療を目指して	石井 隆道	肝胆膵・移植外科	1,560,000	補委 若手研究(B)
キメラ肝臓を用いた次世代の肝臓移植に関する基礎研究	上本 伸二	肝胆膵・移植外科	6,370,000	補委 基盤研究(A)
小胞体ストレス制御による肝癌治療の適応拡大	波多野 悦朗	肝胆膵・移植外科	910,000	補委 基盤研究(C)
新規表面抗原の同定に基づくマウス肝幹細胞の分離および特性解析	安近 健太郎	肝胆膵・移植外科	1,300,000	補委 基盤研究(C)
腫瘍血管新生と低酸素環境を軸としたテーラーメイド癌治療法の創出	森 章	肝胆膵・移植外科	1,300,000	補委 基盤研究(C)
心停止ドナーを用いた肝移植に対する新しい治療戦略-温粗血時間の限界への挑戦	小倉 靖弘	肝胆膵・移植外科	2,210,000	補委 基盤研究(C)
成体肝・膵臓器維持修復機構における胎生期臓器形成システムの意義解明	川口 義弥	肝胆膵・移植外科	1,600,000	補委 挑戦的萌芽研究
一酸化窒素を用いた過少グラフト肝移植に対する新しい治療戦略	八木 真太郎	肝胆膵・移植外科	1,599,000	補委 研究活動スタート支援
細胞工学的手法によるCINCA症候群の病態の解明それに基づく治療法の開発	西小森 隆太	小児科	5,590,000	補委 基盤研究(B)
難治性血液腫瘍疾患に対する新規治療法の開発と新規細胞死機序の解析	足立 壯一	小児科	1,430,000	補委 基盤研究(C)
家族性血球貪食症候群の迅速診断法確立と細胞工学的手法を用いた病態解明	八角 高裕	小児科	1,950,000	補委 基盤研究(C)
臍帯血を用いる造血幹細胞移植技術の高度化と安全性確保に関する研究	足立 壯一	小児科	500,000	補委 免疫アレルギー疾患予防・治療研究事業

小計
19

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
日本人特有の病態を呈する高IgD症候群に向けた新規診療基盤の確立	平家 俊男	小児科	17,550,000	補委 難治性疾患克服研究事業
Cryopyrin-associated periodic syndrome (CAPS) に対する細胞分子生物学的手法を用いた診療基盤技術の開発	平家 俊男	小児科	3,000,000	補委 難治性疾患克服研究事業
Shwachman-Diamond症候群の効果的診断法の確立に関する研究	渡邊 健一郎	小児科	19,500,000	補委 難治性疾患克服研究事業
原発性免疫不全症候群に関する調査研究	平家 俊男	小児科	1,500,000	補委 難治性疾患克服研究事業
インターロイキン1受容体関連キナーゼ4 (IRAK4) 欠損症の全国症例数把握及び早期診断スクリーニング・治療法開発に関する研究	西小森 隆太	小児科	1,500,000	補委 難治性疾患克服研究事業
外胚葉形成不全免疫不全症の実態調査と治療ガイドラインの作成	西小森 隆太	小児科	1,000,000	補委 難治性疾患克服研究事業
Congenital dyserythropoietic anemia (CDA) およびサラセミア貧血の効果的診断法確立に関する研究	渡邊 健一郎	小児科	1,000,000	補委 難治性疾患克服研究事業
NOD2変異を基盤とするブラウ症候群/若年発症サルコイドーシスに対する診療基盤の開発	西小森 隆太	小児科	2,000,000	補委 難治性疾患克服研究事業
小児急性骨髄性白血病 (AML) に対する標準的治療法の確立	足立 壯一	小児科	21,270,000	補委 がん臨床研究事業
前立腺癌のホルモン不応性獲得におけるプロスタグランジンE2 (PGE2) 受容体の関与 (2)	小川 修	泌尿器科	2,000,000	補委 小野薬品工業(株)
泌尿器がんの診断用新規腫瘍マーカー開発	小川 修	泌尿器科	550,000	補委 東レ(株)
先端的がん治療反応性予測用DNAチップの実用化開発	小川 修	泌尿器科	15,185,000	補委 東レ(株)
腎癌骨転移におけるPGE2受容体EP4の役割	小川 修	泌尿器科	2,000,000	補委 小野薬品工業(株)
ゲノム網羅的解析情報を基盤とするオーダーメイドがん医療(前立腺癌の疾患感受性、治療反応性、および治療副作用予測に関する遺伝子多型解析)	小川 修	泌尿器科	4,000,000	補委 文部科学省
腎細胞癌のマトリックス・リモデリング制御機構に着目した個別化抗血管新生療法の検討	神波 大己	泌尿器科	1,300,000	補委 基盤研究(C)
核マトリックス蛋白質に基づくホルモン不応性前立腺癌の新規標的分子の探索	井上 貴博	泌尿器科	1,170,000	補委 基盤研究(C)
尿中分泌miRNAを用いた新規前立腺癌バイオマーカーの探索	小川 修	泌尿器科	1,800,000	補委 挑戦的萌芽研究
ILK-GSK3β経路を利用したハイリスク膀胱癌への新規分子標的治療の確立	松井 喜之	泌尿器科	1,599,000	補委 研究活動スタート支援
高悪性度筋層非浸潤癌に対する経尿道的膀胱腫瘍切除後の治療方針の確立に関する研究	小川 修	泌尿器科	250,000	補委 がん臨床研究事業

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
各種生理活性物質の内耳傷害抑制・再生に関する基礎的検討2	伊藤 壽一	耳鼻咽喉科	2,002,000	補 委 小野薬品(株)
脂肪細胞由来幹細胞を用いた内耳再生に関する研究	中川 隆之	耳鼻咽喉科	420,000	補 委 オリンパス(株)
光コヒーレンストモグラフィーを用いた耳鼻咽喉・頭頸部領域診断法の開発	坂本 達則	耳鼻咽喉科	0	補 委 (株)ニデック
京都大学 i P S 細胞研究統合推進拠点	伊藤 壽一	耳鼻咽喉科	17,250,000	補 委 文部科学省
間葉系細胞を分化誘導した再生骨格筋の機能的有効性と安全性の研究	平野 滋	耳鼻咽喉科	7,478,500	補 委 (独) 医薬基盤研究所
内耳再生医療の開発ー内耳発生分子機構を応用したトランスレーショナルリサーチー	伊藤 壽一	耳鼻咽喉科	13,520,000	補 委 基盤研究(A)
声帯の粘膜再生:組織幹細胞の同定と再生への応用	平野 滋	耳鼻咽喉科	1,690,000	補 委 基盤研究(C)
内耳疾患特異的 i P S 細胞を用いた新しい内耳病態解析モデルの確立	中川 隆之	耳鼻咽喉科	1,820,000	補 委 基盤研究(C)
蝸牛内リンパ画像による難聴の原因診断	坂本 達則	耳鼻咽喉科	1,200,000	補 委 挑戦的萌芽研究
前庭機能異常に関する調査研究	伊藤 壽一	耳鼻咽喉科	1,700,000	補 委 難治性疾患克服研究事業
内耳薬物投与システムを応用した感音難聴、耳鳴り治療技術の臨床応用	中川 隆之	耳鼻咽喉科	18,700,000	補 委 障害者対策総合研究事業
再生医学的アプローチによる難治性中耳炎からの完全治癒戦略と臨床応用	金丸 眞一	耳鼻咽喉科	17,540,000	補 委 障害者対策総合研究事業
MEMS/NEMS 人工聴覚器による感音難聴治療法開発	伊藤 壽一	耳鼻咽喉科	13,000,000	補 委 障害者対策総合研究事業
b F G F 徐放性生体吸収性ゼラチンハイドロゲルによる歯槽骨の再生治療	別所 和久	歯科口腔外科	1,300,000	補 委 (独) 科学技術振興機構
疾患動物モデルにおける唾液腺由来神経成長因子による免疫調節作用機序の解明	家森 正志	歯科口腔外科	1,950,000	補 委 若手研究(B)
歯数制御による歯牙再生に関する分子生物学的研究	高橋 克	歯科口腔外科	1,820,000	補 委 基盤研究(C)
ナノ技術を応用した新規遺伝子導入法の開発	大澤 賢次	歯科口腔外科	700,000	補 委 特別研究員奨励費
滑膜から樹立した幹細胞による顎関節組織再生に関する基礎的研究	藤村 和磨	歯科口腔外科	9,767,616	補 委 繰越 基盤研究(B)
生理活性物質を用いた硬組織再生のトランスレーショナルリサーチ	別所 和久	歯科口腔外科	14,170,000	補 委 繰越 基盤研究(B)

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
肥満・残存高血圧合併睡眠時無呼吸患者に対する防風通聖散及び大柴胡湯の治療効果の比較と病態生理の解明	別所 和久	歯科口腔外科	800,000	補(株)循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業
高精度放射線治療に必要な研修プログラムの開発と実施に関する研究(SRP)	平岡 真寛	放射線治療科	10,000,000	補(株)バリアンメディカルシステムズ
薬剤を内包したラクトソームの評価	平岡 真寛	放射線治療科	11,420,000	補(株)島津製作所
iPlan RT 4.1治療計画ソフトウェアの臨床評価	平岡 真寛	放射線治療科	0	補ブレインラボ(株)
新型画像誘導放射線治療装置を用いた四次元放射線治療の臨床実用化研究	平岡 真寛	放射線治療科	10,000,000	補三菱重工業株式会社
高分解能・高感度型乳腺用PET装置による乳癌の診断	平岡 真寛	放射線治療科	2,508,000	補(株)島津製作所
高次生体イメージング先端テクノハブ	平岡 真寛	放射線治療科	43,394,000	補キヤノン株式会社
新規抗がん化合物の放射線増感作用評価	平岡 真寛	放射線治療科	1,980,000	補武田薬品工業株式会社
局所進行直腸癌に対するTS-1/CPT-11併用術前化学放射線療法の前臨床第1相試験(試験実施計画書No. TCOG GI-0902)	平岡 真寛	放射線治療科	0	補特定非営利活動法人東京がん化学療法研究会
がんの超早期局在診断に対応した高精度X線治療システム研究開発	平岡 真寛	放射線治療科	25,420,000	補(独)新エネルギー・産業技術総合開発機構
20指-5・放射線治療を含む標準治療確立のための多施設共同研究	平岡 真寛	放射線治療科	21,350,000	補(独)国立がん研究センター
中枢存在型肺癌に対する体幹部定位放射線治療に関する基礎的検討	松尾 幸憲	放射線治療科	650,000	補若手研究(B)
低酸素を標的とした新たながん転移治療の開発	板坂 聡	放射線治療科	1,430,000	補若手研究(B)
難治がんの治療成績向上を目指した革新的放射線治療技術の開発	平岡 真寛	放射線治療科	36,140,000	補基盤研究(S)
イメージング技術が拓く革新的医療機器創出特区-超早期診断から最先端治療まで-	平岡 真寛	放射線治療科	0	補先端医療開発特区設備整備費補助金
持続的発展を見据えた「分子追跡放射線治療装置」の開発 サブテーマ2「分子追跡X線治療装置の開発」	平岡 真寛	放射線治療科	39,800,000	補独立行政法人日本学術振興会 先端研究助成基金助成金
持続的発展を見据えた「分子追跡放射線治療装置」の開発 サブテーマ2「分子追跡X線治療装置の開発」	平岡 真寛	放射線治療科	192,690,000	補独立行政法人日本学術振興会 最先端研究開発戦略的強化費補助金
高分解能・高感度型乳腺用PET装置による乳癌の診断	富樫 かおり	放射線診断科	2,508,000	補株式会社島津製作所
MRI装置の性能の向上及び臨床評価 1) 画質を含めた性能向上 2) 向上させた性能についての臨床評価	富樫 かおり	放射線診断科	16,720,000	補東芝メディカルシステムズ株式会社

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
放射線診療機器(1.5T及び3T MRI装置)の高機能化に関する研究	富樫 かおり	放射線診断科	13,090,000	補(委) 東芝メディカルシステムズ株式会社
超高磁場MRI装置と32チャンネルコイルによる高精細拡散テンソルマップ作成	山本 憲	放射線診断科	910,000	補(委) 若手研究(B)
高分解能・高感度型乳腺用PET装置による乳癌の診断	中本 裕士	放射線診断科	1,300,000	補(委) 基盤研究(C)
難治性皮膚潰瘍を対象とした新規医療基材と線維芽細胞増殖因子との併用による創傷治療の安全性及び有効性に関する探索的臨床試験	鈴木 茂彦	形成外科	0	補(委) グンゼ(株)
糖関連物質のケロイド及び肥厚性瘢痕治療効果に関する研究	鈴木 茂彦	形成外科	2,200,000	補(委) 生化学工業株式会社
細胞増殖因子保持型新規人工真皮の実用化	鈴木 茂彦	形成外科	23,000,000	補(委) (独)科学技術振興機構
ケロイドの病態形成に関与する糖鎖機能の解析	山脇 聖子	形成外科	2,080,000	補(委) 若手研究(B)
培養真皮臨床試験および複合型培養皮膚の臨床試験に向けた基礎的研究	森本 尚樹	形成外科	1,430,000	補(委) 基盤研究(C)
類ケロイドマトリックス基材を用いた新規ケロイドモデルの開発	内藤 素子	形成外科	1,500,000	補(委) 挑戦的萌芽研究
ケロイド幹細胞:分離・同定とその発生病理学的意義	鈴木 茂彦	形成外科	4,810,000	補(委) 緑越 基盤研究(B)
肺癌における分子標的の探索と遺伝子治療の開発	伊達 洋至	呼吸器外科	10,000,000	補(委) 大鵬薬品工業株式会社
ALKフュージョンの新規パートナー遺伝子の検索	園部 誠	呼吸器外科	2,730,000	補(委) 基盤研究(C)
フローサイトメトリー技術を用いた異常細胞検出の研究	一山 智	検査部	905,100	補(委) シスメックス(株)
迅速PCRを用いたMRSA検出による院内感染対策の有効性の評価	長尾 美紀	検査部	500,000	補(委) 日本ベクトン・ディッキンソン(株)
脳内情報処理の電気生理学的評価に関する研究	伊藤 順子	検査部	260,000	補(委) 基盤研究(C)
膵島移植部位の血管新生誘導能ならびに移植膵島の保護機能を有する支持体の開発	興津 輝	臓器移植医療部	0	補(委) (株)高研
アカデミアのIR拠点が創出する膵島移植確立のための戦略的アプローチ②新規免疫抑制療法を併用する臨床膵島移植の開発(京都大学における膵島分離および新規免疫抑制療法を用いた膵島移植技術の開発)	上本 伸二	臓器移植医療部	5,583,164	補(委) 文部科学省
埋め込み式バイオ人工膵臓による新規糖尿病治療の開発	興津 輝	臓器移植医療部	11,648,000	補(委) 学校法人加計学園岡山理科大学(JS T育成研究再委託)
$\gamma\delta$ T細胞を用いた新しい免疫制御法の確立	吉澤 淳	臓器移植医療部	1,950,000	補(委) 若手研究(B)

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
ポリフェノールを用いた移植臓器に対する免疫反応の抑制	岩永 康裕	臓器移植医療部	3,770,000	補委 繰越 基盤研究 (C)
動脈硬化性疾患の成因と予防に関する探索研究	横出 正之	探索医療センター	50,000,000	補委 大塚製薬 (株)
自主臨床試験のリスクに応じた被験者保護 <無過失補償とインフォームドコンセント>	村山 敏典	探索医療センター	1,560,000	補委 基盤研究 (C)
TS-1 を用いた消化器癌の化学療法における有害事象および治療効果と遺伝子多型との関連に関する研究	柳原 一広	外来化学療法部	4,400,000	補委 大鵬薬品工業 (株)
乳癌内分泌療法において薬物代謝酵素遺伝子多型が薬物血中濃度に及ぼす影響の検討	石黒 洋	外来化学療法部	500,000	補委 日本化薬 (株)
切除不能進行肝癌 (局所進行又は転移性) に対する Gemcitabine 療法 / TS-1 療法 / Gemcitabine + TS-1 併用療法の第Ⅲ相無作為化比較試験	松本 繁巳	外来化学療法部	0	補委 大鵬薬品工業 (株)
切除不能大腸癌に対する 5-FU/I-LV/oxaliplatin (FOLFOX) + bevacizumab と TS-1/oxaliplatin (SOX) + bevacizumab とのランダム化比較第Ⅲ相試験	松本 繁巳	外来化学療法部	282,600	補委 大鵬薬品工業 (株)
Stage II / Stage III 結腸癌治療切除例に対する術後補助化学療法としての mFOLFOX6 療法の認容性に関する検討 (JFMC41-1001-C2)	松本 繁巳	外来化学療法部	0	補委 (財) がん集学的治療研究財団
肝細胞癌における肝移植治療後の予後因子としての遺伝子メチル化の研究	西村 貴文	外来化学療法部	650,000	補委 基盤研究 (C)
薬物動態・薬理遺伝学に基づいたテーラーメイド抗がん剤治療の標準治療化に関する研究	石黒 洋	外来化学療法部	302,100	補委 繰越 基盤研究 (C)
オキサリプラチンを用いた大腸癌化学療法の個別化治療を目指した遺伝子多型解析	金井 雅史	外来化学療法部	1,950,000	補委 若手研究 (B)
創薬バイオマーカー探索研究 (トランスクリプトーム分野) に関する指定研究と公募研究の共同研究	増田 智先	薬剤部	0	補委 (独) 医薬基盤研究所・国立医薬品食品衛生研究所
タクロリムス測定値の施設間差、方法間差の検討	桂 敏也	薬剤部	600,000	補委 アポットジャパン (株)
LC/MS/MS 定量法による固相抽出 MS 法の精度検証	桂 敏也	薬剤部	2,320,000	補委 株式会社日立ハイテクノロジーズ
薬剤性移植肝障害発現の分子機構解明	増田 智先	薬剤部	7,280,000	補委 若手研究 (A)
新規分子標的治療薬の体内動態とゲノム解析を基盤とした個別化癌薬物療法の確立	福土 将秀	薬剤部	1,820,000	補委 若手研究 (B)
臨床症例に基づく新規リポフラビントランスポーター RFT の病態生理的役割の解明	米澤 淳	薬剤部	2,470,000	補委 若手研究 (B)
メタボリックシンドローム患者の薬物動態変動機構の解明と薬物治療への応用	乾 賢一	薬剤部	13,910,000	補委 基盤研究 (A)
薬物間相互作用を利用したシスプラチン腎症の防御とがん化学療法への応用	乾 賢一	薬剤部	1,500,000	補委 挑戦的萌芽研究

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
腎疾患時のヒト腎近位尿細管における薬物トランスポータの変動と発現制御因子	本橋 秀之	薬剤部	1,560,000	補 委 若手研究 (B)	
生活習慣病における薬物トランスポータ発現変動機構の解明と薬物治療への応用	梶原 望渡	薬剤部	700,000	補 委 特別研究員奨励費	小計 2
				補 委	計 172

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
International Journal of Hematology	11C-Methionine PET/CT for multiple myeloma.	西澤 正俊	血液・腫瘍内科
Immunology	Optimal stimulation for CD70 induction on human monocyte-derived dendritic cells and the importance of CD70 in naive CD4+ T cell differentiation	宮本 和恵	血液・腫瘍内科
Blood	Bortezomib suppresses function and survival of plasmacytoid dendritic cells by targeting intracellular trafficking of Toll-like receptors and endoplasmic reticulum homeostasis	平井 麻起子	血液・腫瘍内科
Bone Marrow Transplantation	Impact of discontinuing fluoroquinolone prophylaxis on early mortality after bone marrow or peripheral blood SCT with myeloablative conditioning.	諫田 淳也	血液・腫瘍内科
Blood	Transplantation of allogeneic hematopoietic stem cells for adult T-cell leukemia: a nationwide retrospective study.	菱澤 方勝	血液・腫瘍内科
Circ J.	Efficacy of abciximab for patients undergoing balloon angioplasty: data from Japanese evaluation of c7E3 Fab for elective and primary PCI organization in randomized trial (JEPPOINT).	Nakagawa Y	循環器内科
Circ J.	Coronary Risk Factor Profile and Prognostic Factors for Young Japanese Patients Undergoing Coronary Revascularization.	Furukawa Y	循環器内科
Circulation	Antiplatelet Therapy and Stent Thrombosis After Sirolimus-eluting Stent Implantation.	Kimura T	循環器内科
Circ J.	Clopidogrel Resistance in Japanese Patients Scheduled for Percutaneous Coronary Intervention.	Hoshino K	循環器内科
Ann Thorac Surg.	Temporal Pattern of Strokes after On-Pump and Off-Pump Coronary Artery Bypass Graft Surgery.	Nishiyama K	循環器内科
Circ J.	Incidence of and Risk Factors for Contrast-Induced Nephropathy After Cardiac Catheterization in Japanese Patients.	Abe M	循環器内科
Circ J.	The Impact of CYP2C19 Polymorphisms on the Antiplatelet Effect of Clopidogrel in an Actual Clinical Setting in Japan.	Jinnai T	循環器内科
Circulation	Three-Year Outcomes After Sirolimus-Eluting Stent Implantation for Unprotected Left Main Coronary Artery Disease: Insights from the J-Cypher Registry.	Kimura T	循環器内科
Biochem Biophys Res Commun.	MicroRNA-133 regulates the expression of GLUT4 by targeting KLF15 and is involved in metabolic control in cardiac myocytes.	Horie T	循環器内科
J Biol Chem.	Tuberous sclerosis tumor suppressor complex-like complexes act as GTPase-activating proteins for Ral GTPases.	Shirakawa R	循環器内科
Atherosclerosis.	Progranulin expression in advanced human atherosclerotic plaque.	Kojima Y	循環器内科
Nat. Neurosci.	Axonal Maturation and Myelination in the Central and Peripheral Nervous System.	Ohno M	循環器内科
Proc Natl Acad Sci U S A	Fibulin-4 conducts proper elastogenesis via interaction with cross-linking enzyme lysyl oxidase.	Horiguchi M	循環器内科

小計
18

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Biochem Biophys Res Commun.	The search for Nkx2-5-regulated genes using purified embryonic stem cell-derived cardiomyocytes with Nkx2-5 gene targeting.	Nakashima Y	循環器内科
Inflammatory Bowel Disease	Efficacy of Oral Tacrolimus on Inetestinal Behcet' s Disease.	Matsumura Kayoko	消化器内科
Inflammatory Bowel Disease	Effect of EP4 agonist (ONO-4819CD) for patients with mild to moderate ulcerative colitis refractory to 5-aminosalicylates: A randomized phase 2, placebo-controlled trial.	Nakase Hiroshi	消化器内科
Journal of Clinical Oncology	Early detection of superficial squamous cell carcinoma in the head and neck region and esophagus by narrow band imaging: a multicenter randomized controlled trial.	Muto Manabu	消化器内科
Journal of Gastroenterology	Perfusion CT is superior to angiography in predicting pancreatic necrosis in patients with severe acute pancreatitis.	Tsuji Yoshihisa	消化器内科
Inflammatory Bowel Disease	Positive finding of Colonic PCR for CMV-DNA is not false positive but warning for treating patients with UC refractory to immunosuppressive therapies	Nakase Hiroshi	消化器内科
PLoS One.	Colocalization of 14-3-3 proteins with SOD1 in Lewy body-like hyaline inclusions in familial amyotrophic lateral sclerosis cases and the animal model.	岡本 洋子	神経内科
Neurosci Lett.	Watershed infarcts in a multiple microembolic model of monkey.	眞木 崇州	神経内科
Neurosci Res.	Functional relevance of pre-supplementary motor areas for the choice to stop during Stop signal task.	梶 勇人	神経内科
Stroke.	Angiogenic and vasoprotective effects of adrenomedullin on prevention of cognitive decline after chronic cerebral hypoperfusion in mice.	眞木 崇州	神経内科
J Biomol Screen.	Chemical library screening identifies a small molecule that downregulates SOD1 transcription for drugs to treat amyotrophic lateral sclerosis.	村上 学	神経内科
Clin Neurophysiol.	Decreased cortical excitability in Unverricht-Lundborg disease in the long-term follow-up: a consecutive SEP study.	小林 勝哉	神経内科
Clin Neurophysiol.	Ictal wideband ECoG: direct comparison between ictal slow shifts and high frequency oscillations.	今村 久司	神経内科
PLoS One.	The influence of chronic cerebral hypoperfusion on cognitive function and amyloid β metabolism in APP overexpressing mice.	山田 真人	神経内科
J Neurochem.	Ammonium chloride and tunicamycin are novel toxins for dopaminergic neurons and induce Parkinson's disease-like phenotypes in medaka fish.	松井 秀彰	神経内科
Neuropsychologia.	Left anterior temporal cortex actively engages in speech perception: A direct cortical stimulation study.	松本 理器	神経内科
J Biol Chem.	N-cadherin regulates p38 MAPK signaling via association with JNK-associated leucine zipper protein: implications for neurodegeneration in Alzheimer disease.	安藤 功一	神経内科
J Biol Chem.	The endoplasmic reticulum stress sensor, ATF6 α , protects against neurotoxin-induced dopaminergic neuronal death.	江川 斉宏	神経内科
J Neurol Neurosurg Psychiatry.	Amygdalar enlargement in patients with temporal lobe epilepsy.	三枝 隆博	神経内科

小計
19

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Stroke.	Early protective effect of bone marrow mononuclear cells against ischemic white matter damage through augmentation of cerebral blood flow.	藤田 祐之	神経内科
Neuroreport.	Localization of HtrA2/Omi immunoreactivity in brains affected by Alzheimer's disease.	河本 恭裕	神経内科
J Neurochem.	Proteasome inhibition in medaka brain induces the features of Parkinson's disease.	松井 秀彰	神経内科
Stroke.	Nonhypotensive dose of telmisartan attenuates cognitive impairment partially due to peroxisome proliferator-activated receptor-gamma activation in mice with chronic cerebral hypoperfusion.	鷺田 和夫	神経内科
臨床神経学	[Intravenous recombinant tissue plasminogen activator in an 18-week pregnant woman with embolic stroke].	山口 裕子	神経内科
Stroke.	A mouse model characterizing features of vascular dementia with hippocampal atrophy.	西尾 佳子	神経内科
Alzheimer's Disease. Research Journal	INSIGHT INTO 'SYNAPTAPATHY' IN ALZHEIMER'S DISEASE: FROM LIFESTYLE TO PS1/N-CADHERIN INTERACTION	葛谷 聡	神経内科
Transplant International 23: 1015-1022, 2010	Effect of IVIG administration on complement activation and HLA antibody levels.	Takafumi Machimoto	肝胆膵・移植外科
Liver Transplant 16: 1379-1385, 2010	Posttransplant bacteremia in adult living donor liver transplant recipients.	Taku lida	肝胆膵・移植外科
Transplantation 89: 1163-1164, 2010	The rare insertion of b4 with trifurcated portal vein in live donor.	Taku lida	肝胆膵・移植外科
Transpl International 23: 105-109, 2010	Successful treatment of pulmonary hypertension secondary to congenital extrahepatic portocaval shunts (Abernethy type 2) by living donor liver transplantation after surgical shunt ligation.	Taku lida	肝胆膵・移植外科
J Hepatobiliary Pancreatic Surgery 17: 527-532, 2010	Liver transplantation for hepatocellular carcinoma: the Kyoto experience	Yasutsugu Takada	肝胆膵・移植外科
Transplant Research 156: 68-79, 2010	Initial burst of viremia related to CD8 effector memory T cells after living donor liver transplantation in hepatitis C virus-infected recipients	Yasutsugu Takada	肝胆膵・移植外科
Transplant Infectious Disease 12: 353-357, 2010	Herpes simplex virus hepatitis after pediatric liver transplantation	Tomohide Hori	肝胆膵・移植外科
Transpl International 23: 338-340, 2010	Fatal impact of lymphocyte cross-matching upon humoral rejection after adult living related liver transplantation	Tomohide Hori	肝胆膵・移植外科
Transplant Infectious Disease 12: 347-352, 2010	Hashino's encephalopathy after interferon therapy for hepatitis C virus in adult liver transplant recipient accompanied by post-transplant lymphoproliferative disorder related to Epstein-Barr virus infection	Tomohide Hori	肝胆膵・移植外科
World J Gastroenterology 16: 3120-3132, 2010	Comprehensive and innovate techniques for liver transplantation in rats: a surgical guide.	Tomohide Hori	肝胆膵・移植外科
Surgery 147: 840-844, 2010	Does a positive lymphocyte cross-match contraindicate living-donor liver transplantation?	Tomohide Hori	肝胆膵・移植外科
American J Transplantation 10: 1951-1952, 2010	Long-term outcomes after living-donor liver transplantation for Alagille syndrome: a single center 20-year experience in Japan	Tomohide Hori	肝胆膵・移植外科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Annals of Gastroenterology 23: 270-295, 2010	Surgical guide including innovative techniques for orthotopic liver transplantation in the rat: Key techniques and pitfalls in whole and split liver grafts	Tomohide Hori	肝胆脾・移植外科
Digestive Surgery 27: 492-501, 2010	Liver transplantation for congenital biliary dilatation: a single-center experience	Tomohide Hori	肝胆脾・移植外科
Cell Tissue Research 339: 505-512, 2010	In vitro hepatic maturation of human embryonic stem cells by using a mesenchymal cell line derived from murine fetal livers	Takashi Ishii	肝胆脾・移植外科
Cancer Letters 294: 25-34, 2010	Alpha-fetoprotein producing cells act as cancer progenitor cells in human cholangiocarcinoma	Takashi Ishii	肝胆脾・移植外科
Microsurgery 30: 296-301, 2010	Use of rat segmental intestine for fetal pancreatic transplantation.	Junji Iwasaki	肝胆脾・移植外科
Microsurgery 30: 302-306	Development of a portocaval shunt using a small intestinal segment in rats	Toshiyuki Hata	肝胆脾・移植外科
Liver Transplant 16: 453-460, 2010	Can children catch up in growth after living donor liver transplantation?	El Moghazy WM	肝胆脾・移植外科
Transplant International 23: 823-830, 2010	Pediatric living-donor liver transplantation for acute liver failure: analysis of 57 cases	El Moghazy WM	肝胆脾・移植外科
Annals of Surgery Epub	A phosphodiesterase III inhibitor protects rat liver from sinusoidal obstruction syndrome through heme oxygenase-1 induction	Etsuro Hatano	肝胆脾・移植外科
Clinical Experimental Immunology 160: 420-430, 2010	Coupled regulation of interleukin-12 receptor beta-1 of CD8 central memory and CCR7-negative memory T cells in an early alloimmunity in liver transplant recipients	Hiroto Egawa	肝胆脾・移植外科
Liver Transplant 16: 718-728, 2010	Portal pressure < 15mmHg is a key for successful adult living donor liver transplantation utilizing smaller grafts than before	Yasuhiro Ogura	肝胆脾・移植外科
J Hepatobiliary Pancreatic Science 17: 885-891, 2010	Muromonab-CD3 therapy for refractory rejections after liver transplantation: a single-center experience during two decades in Japan	Daisuke Ueda	肝胆脾・移植外科
International J Oncology 37: 89-96, 2010	Resistance to cisplatin-induced apoptosis via PI3K-dependent surviving expression in a rat hepatoma cell line	Hiroyuki Asechi	肝胆脾・移植外科
J Hepatobiliary Pancreatic Science Epub	Genetic lineage tracing, a powerful tool to investigate the embryonic organogenesis and adult organ maintenance of the pancreas	Yoshiya Kawaguchi	肝胆脾・移植外科
Transplantation 90: 1547-1555, 2010	The generation of donor-specific CD4+CD25++CD45RA+ naive regulatory T cells in operationally tolerant patients after pediatric living-donor liver transplantation	Nafady-Hego H	肝胆脾・移植外科
J Obstet Gynaecol Res	Disseminated intravascular coagulation as the presenting sign of gastric cancer during pregnancy	近藤 英治	産科婦人科
Int J Cancer	Targeting slow-proliferating ovarian cancer cells.	近藤 英治	産科婦人科
Gynecological Oncology	Ovarian cancer tumor infiltrating T-regulatory (T(reg)) cells are associated with a metastatic phenotype.	近藤 英治	産科婦人科
Obstetrics and Gynecology	High poly (adenosine diphosphate-ribose) polymerase expression and poor survival in advanced-stage serous ovarian cancer.	近藤 英治	産科婦人科

小計

19

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
J Obstet Gynaecol Res	Middle cerebral artery-peak systolic velocity in dizygotic twins with anti-E alloimmunization.	佐藤 幸保	産科婦人科
Ultrasound Obstet Gynecol	Prenatal treatment of meconium peritonitis with urinary trypsin inhibitor.	佐藤 幸保	産科婦人科
J Obstet Gynaecol Res	Management of retained products of conception with marked vascularity.	佐藤 幸保	産科婦人科
J Obstet Gynaecol Res	Response to 'Retained products of conception with marked vascularity: Pseudoaneurysm hidden behind it'.	佐藤 幸保	産科婦人科
Fetal Diagn Ther	Prenatal findings in congenital leukemia: a case report.	佐藤 幸保	産科婦人科
J Matern Fetal Neonatal Med	Management of fetal death with placenta previa.	佐藤 幸保	産科婦人科
Ultrasound Obstet Gynecol	Prenatal diagnosis of anterior sacral meningocele.	佐藤 幸保	産科婦人科
J Obstet Gynaecol Res.	Endometrial cancer implanted within a cesarean section scar.	馬場 長	産科婦人科
Mol Cancer Ther.	GPR54 is a target for suppression of metastasis in endometrial cancer.	馬場 長	産科婦人科
BMC Cancer.	Expression signatures of TP53 mutations in serous ovarian cancers.	馬場 長	産科婦人科
J Obstet Gynaecol Res.	Primary squamous cell carcinoma of fallopian tube accompanied by gastric metaplasia of female genital tract: Case report and review.	馬場 長	産科婦人科
Hum Reprod	Ephrin A1 induces intercellular dissociation in Ishikawa cells: possible implication of the Eph-ephrin A system in human embryo implantation.	藤原 浩	産科婦人科
Hum Reprod	EphrinA1 stimulates cell attachment and inhibits cell aggregation through the EphA receptor pathway in human endometrial carcinoma-derived Ishikawa cells.	藤原 浩	産科婦人科
J Obstet Gynaecol Res	Successful recovery from delayed amniotic fluid embolism with prolonged cardiac resuscitation.	松村 謙臣	産科婦人科
Int J Cancer.	The activated transforming growth factor-beta signaling pathway in peritoneal metastases is a potential therapeutic target in ovarian cancer.	松村 謙臣	産科婦人科
Genome Res.	Epigenetic suppression of the TGF-beta pathway revealed by transcriptome profiling in ovarian cancer.	松村 謙臣	産科婦人科
Mod Pathol.	Distinguishing primary from secondary mucinous ovarian tumors: an algorithm using the novel marker DPEP1.	松村 謙臣	産科婦人科
Cancer Sci.	Sorafenib efficacy in ovarian clear cell carcinoma revealed by transcriptome profiling.	松村 謙臣	産科婦人科
Horm Cancer.	Suppression of metastatic murine ovarian cancer cells by transduced embryonic progenitor cells.	万代 昌紀	産科婦人科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Am J Surg Pathol.	Oct4 expression in immature teratoma of the ovary: relevance to histologic grade and degree of differentiation.	万代 昌紀	産科婦人科
Pediatric Research	Thioredoxin binding protein-2 inhibits excessive fetal hypoglycemia during maternal starvation by suppressing insulin secretion in mice.	最上 晴太	産科婦人科
J Cell Physiol	Cyclin-dependent kinase 9 forms a complex with GATA4 and is involved in the differentiation of mouse ES cells into cardiomyocytes	Kaichi S	小児科
Mol Cell Neurosci	Inactivation of fibroblast growth factor binding protein 3 causes anxiety-related behaviors	Yamanaka Y	小児科
Pediatr Cardiol	Long-term outcome of sirolimus-eluting stent implantation for left main coronary artery stenosis in infancy	Kaichi S	小児科
Cardiovasc Res	Cell line-dependent differentiation of induced pluripotent stem cells into cardiomyocytes in mice	Kaichi S	小児科
Biochem Biophys Res Commun	Neonatal mouse testis-derived multipotent germline stem cells improve the cardiac function of acute ischemic heart mouse model	Iwasa T	小児科
Dev Dyn	Ttyh1, a Ca ²⁺ -binding protein localized to the endoplasmic reticulum, is required for early embryonic development	Kumada T	小児科
FASEB J	Generation of skeletal muscle stem/progenitor cells from murine induced pluripotent stem cells	Mizuno Y	小児科
J Cardiothorac Surg	Effective cardiac resynchronization therapy for an adolescent patient with dilated cardiomyopathy seven years after mitral valve replacement and septal anterior ventricular exclusion	Mima T	小児科
Asian J Androl. 13: 236-4, 2011	A potent chemotherapeutic strategy in prostate cancer: S-(methoxytrityl)-L-cysteine, a novel Eg5 inhibitor. Asian J Androl. 13: 236-4, 2011	小川 修	泌尿器科
J Urol	A potent chemotherapeutic strategy for bladder cancer: (S)-methoxy-trityl-L-cystein, a novel Eg5 inhibitor.	小川 修	泌尿器科
Cancer Res	Identification of EP4 as a potential target for the treatment of castration-resistant prostate cancer using a novel xenograft model.	小川 修	泌尿器科
Acta Otolaryngol	Treatment of acute vocal fold scar with local injection of basic fibroblast growth factor: a canine study.	末廣 篤	耳鼻咽喉科
Acta Otolaryngol Suppl	Impacts and limitations of medialization thyroplasty on swallowing function of patients with unilateral vocal fold paralysis.	橋谷 一郎	耳鼻咽喉科
Acta Otolaryngol Suppl	Hydrogen protects vestibular hair cells from free radicals.	田浦 晶子	耳鼻咽喉科
Acta Otolaryngol Suppl	Inner ear drug delivery system from the clinical point of view.	坂本 達則	耳鼻咽喉科
Ann Otol Rhinol Laryngol.	Effects of basic fibroblast growth factor on rat vocal fold fibroblasts.	末廣 篤	耳鼻咽喉科
BMC Med	Topical insulin-like growth factor 1 treatment using gelatin hydrogels for glucocorticoid-resistant sudden sensorineural hearing loss: a prospective clinical trial.	中川 隆之	耳鼻咽喉科

小計
19

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Curr Opin Otolaryngol Head Neck Surg.	Implantation of atelocollagen sheet for vocal fold scar.	岸本 曜	耳鼻咽喉科
Nanomedicine (Lond)	Stealth-nanoparticle strategy for enhancing the efficacy of steroids in mice with noise-induced hearing loss.	堀江 理恵	耳鼻咽喉科
Neuroreport	Insulin-like growth factor 1 protects vestibular hair cells from aminoglycosides.	Angunsri Nakarin	耳鼻咽喉科
J Gene Med.	Osteoinduction by repeat plasmid injection of human bone morphogenetic protein-2.	K. Osawa	歯科口腔外科
Endocrine J	CNP/GC-B system plays important roles in the development of craniofacial region	K. Nakao	歯科口腔外科
J Craniofac Surg.	Post-traumatic temporomandibular joint ankylosis in adults; Is it mandatory to do interposition arthroplasty.	T. Abdelraham	歯科口腔外科
J Appl Clin Med Phys. 2010 Sep 7;11 (4) :3193.	Impact of multileaf collimator width on intraprostatic dose painting plans for dominant intraprostatic lesion of prostate cancer.	Abe E	放射線治療科
Med Phys. 2010 Sep;37 (9) :4684-91.	Dosimetric characterization of a multileaf collimator for a new four-dimensional image-guided radiotherapy system with a gimbaled x-ray head. MHI-TM2000.	Nakamura M	放射線治療科
Int J Radiat Oncol Biol Phys. 2011 Apr 1;79 (5) :1565-71. Epub 2010 Sep 9.	Positional reproducibility of pancreatic tumors under end-exhalation breath-hold conditions using a visual feedback technique.	Nakamura M	放射線治療科
Int J Clin Oncol. 2011 Feb;16 (1) :27-32. Epub 2010 Sep 10.	Hypofractionated stereotactic radiotherapy for acoustic neuromas: safety and effectiveness over 8 years of experience.	Sakanaka K	放射線治療科
Int J Clin Oncol. 2010 Dec;15 (6) :571-7. Epub 2010 Jul 23.	Long-term outcomes of three-dimensional conformal radiation therapy combined with neoadjuvant hormonal therapy in Japanese patients with locally advanced prostate cancer.	Sakamoto M	放射線治療科
Int J Radiat Oncol Biol Phys. 2011 Mar 15;79 (4) :1104-11. Epub 2010 May 14.	Prognostic factors in stereotactic body radiotherapy for non-small-cell lung cancer.	Matsuo Y	放射線治療科
Radiother Oncol. 2010 Nov;97 (2) :200-4. Epub 2010 Apr 27.	Characterization of FDG-PET images after stereotactic body radiation therapy for lung cancer.	Matsuo Y	放射線治療科
J Magn Reson Imaging	Visualization of external carotid artery and its branches: non-contrast-enhanced MR angiography using balanced steady-state free-precession sequence and a time-spatial labeling inversion pulse.	Satogami N	放射線診断科
Acad Radiol	Spin-echo T1-weighted imaging of the brain with interleaved acquisition and presaturation pulse at 3 T: a feasibility study before clinical use.	Kasahara S	放射線診断科
Jpn J Clin Oncol	Clinical value of whole-body FDG-PET for recurrent gastric cancer: a multicenter study.	Nakamoto Y	放射線診断科
Int J Cardiovasc Imaging	Facilitated acquisition of whole-heart coronary magnetic resonance angiography with visual feedback of respiration status.	Okada T	放射線診断科
Eur J Radiol	Whole-heart coronary magnetic resonance angiography with parallel imaging: comparison of acceleration in one-dimension vs. two-dimensions.	Okada T	放射線診断科
J. Surg Res.	The utilization of animal product-free media and autologous serum in an autologous dermal substitute culture.	Morimoto N	形成外科

小計
19

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Biophys. Res. Co.	Elastic fiber assembly is disrupted by excessive accumulation of chondroitin sulfate in the human dermal fibrotic disease, keloids.	Ikeda M	形成外科
Ann Plast Surg	The combined use of hyoid bone flap and radial forearm free flap for reconstruction following partial laryngopharyngectomy.	Yamawaki S	形成外科
Clin Microbiol Infect.	Close cooperation between infectious disease physicians and attending physicians can result in better management and outcome for patients with Staphylococcus aureus bacteraemia.	長尾 美紀	検査部・感染制御部
Am J Infect Control.	First outbreak of methicillin-resistant Staphylococcus aureus USA300 harboring the Pantom-Valentine leukocidin genes among Japanese health care workers and hospitalized patients.	長尾 美紀	検査部・感染制御部
Epidemiol Infect.	Regional spread of vanA- or vanB-positive Enterococcus gallinarum in hospitals and long-term care facilities in Kyoto prefecture, Japan.	白野 倫徳	検査部・感染制御部
Clin Microbiol Infect.	High prevalence of mutators among Enterobacter cloacae nosocomial isolates and their association with antimicrobial resistance and repetitive detection.	松島 晶	検査部・感染制御部
感染症学雑誌	Clostridium difficileトキシン迅速検査キットの評価と微生物学的検討	中川 莉彩	検査部・感染制御部
J Immunol. 2011 Mar 1;186(5):2881-8. Epub 2011 Jan 26.	Identification of semaphorin 4B as a negative regulator of basophil-mediated immune responses.	片岡 竜貴	病理診断部
Pathology. 2011 Jan;43(1):36-9.	Adenocarcinomas associated with perianal fistulae in Crohn's disease have a rectal, not an anal, immunophenotype.	片岡 竜貴	病理診断部
Acta Otolaryngol. 2011 Mar;131(3):323-9. Epub 2010 Dec 10.	CD44 expression is related to poor prognosis of hypopharyngeal squamous cell carcinoma.	片岡 竜貴	病理診断部
J Gastroenterology Hepatology 25: 1598-1603, 2010	Does living donation have advantages over deceased donation in liver transplantation?	Toshimi Kaido	臓器移植医療部
Transplantation 90: 335-337, 2010	Effects of neutrophil elastase inhibitor on progression of acute lung injury after liver transplantation	Toshimi Kaido	臓器移植医療部
Liver Transplant 16: 538-540, 2010	Usefulness of the Kyoto criteria as selection criteria for living donor liver transplantation for hepatocellular carcinoma	Toshimi Kaido	臓器移植医療部
Hepatogastroenterology 57: 1522-1525, 2010	Impact of enteral nutrition using a new immuno-modulating diet after liver transplantation	Toshimi Kaido	臓器移植医療部
Journal of Surgical Research 167: 375-383, 2010	Improved Preservation and Microcirculation with POLYSOL After Partial Liver Transplantation in Rats	Shintaro Yagi	臓器移植医療部
J Viral Hepatitis 17: 481-487, 2010	Clinical features of biochemical cholestasis in patients with recurrent hepatitis C after living-donor liver transplantation	Yoshihide Ueda	臓器移植医療部
Transplantation 90: 661-665, 2010	Individualized extension of pegylated interferon plus ribavirin therapy for recurrent hepatitis C genotype 1b after living-donor liver transplantation	Yoshihide Ueda	臓器移植医療部
Japanese Journal of Clinical Pharmacology and Therapeutics,	Trend Analysis of Informed Consent Research in Clinical Trials: Comprehensive Retrieval via Electronic Databases.	横出 正之	探索医療センター
Proc Natl Acad Sci U S A.	MicroRNA-33 encoded by an intron of sterol regulatory element-binding protein 2 (Srebp2) regulates HDL in vivo.	横出 正之	探索医療センター

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Cancer Epidemiology	Association between glutathione S-transferase P11e105 Val and alkyloxylate aminotransferase Pro11 Leu and Ile340 Met polymorphisms and early-onset oxaliplatin-induced neuropathy.	金井 雅史	外来化学療法部
Oncology	Oxaliplatin-free interval as a risk factor for hypersensitivity reaction among colorectal cancer patients treated with FOLFOX.	森 由希子	外来化学療法部
Cancer Chemother Pharmacol	A multi-institution phase II study of gemcitabine/S-1 combination chemotherapy for patients with advanced biliary tract cancer.	金井 雅史	外来化学療法部
Cancer Chemotherapy and Pharmacology	A Phase I/II Study of Gemcitabine-Based Chemotherapy Plus Curcumin for Patients with Gemcitabine-Resistant Pancreatic Cancer.	金井 雅史	外来化学療法部
Gastrointestinal Endoscopy	Magnifying narrow-band imaging versus magnifying white-light imaging for differential diagnosis of gastric small depressive lesions: A prospective study.	Ezoe Yasumasa	集学的がん診療学講座
J Hum Genet. 2011 Feb;56 (2) :110-24	Clinical application of array-based comparative genomic hybridization by two-stage screening for 536 patients with mental retardation and multiple congenital anomalies.	Numabe H	遺伝子診療部
Pancreas. 2011 Jan;40 (1) :171-3.	A case of 1p36 deletion syndrome accompanied with anomalous arrangement of the pancreaticobiliary duct.	Numabe H	遺伝子診療部
Am J Med Genet A. 2011 Sep;155 (9) :2311-3	Reproductive success in patients with Hallermann-Streiff syndrome.	Numabe H	遺伝子診療部
J Hum Genet. 2011 Aug 18. doi: 10.1038 /jhg.2011.85. [Epub ahead of print]	HRAS mutants identified in Costello syndrome patients can induce cellular senescence: possible implications for the pathogenesis of Costello syndrome.	Numabe H	遺伝子診療部
Biochem Pharmacol	Organic cation transporter OCT/SLC22A and H ⁺ /organic cation antiporter MATE/SLC47A are key molecules for nephrotoxicity of platinum agents.	桂 敏也	薬剤部
Drug Metab Pharmacokinet	A transient increase of calcineurin phosphatase activity in living-donor kidney transplant recipients with acute rejection.	桂 敏也	薬剤部
Ann Oncol	ABGG2 421C>A polymorphism and high exposure of sunitinib in a patient with renal cell carcinoma.	桂 敏也	薬剤部
Biochem Pharmacol	Disruption of multidrug and toxin extrusion MATE1 potentiates cisplatin-induced nephrotoxicity.	桂 敏也	薬剤部
Am J Physiol Renal Physiol	Impact of Cyclin B2 and Cell division cycle 2 on tubular hyperplasia in progressive chronic renal failure rats.	桂 敏也	薬剤部
Drug Metab Pharmacokinet	Hepatitis C virus-related cirrhosis is a major determinant of the expression levels of hepatic drug transporters.	桂 敏也	薬剤部
Int J Clin Oncol	Tolerable sorafenib therapy for a renal cell carcinoma patient with hemodialysis: a case study.	桂 敏也	薬剤部
J Pharmacol Exp Ther	Reduced renal clearance of a zwitterionic substrate cephalexin in MATE1-deficient mice.	桂 敏也	薬剤部
J Nutr	Identification and comparative functional characterization of a new human riboflavin transporter hRFT3 expressed in the brain.	桂 敏也	薬剤部
			小計 18
			計 169

(注)1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること。(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長 三嶋 理晃	
管理担当者氏名	薬剤部長 桂 敏也 医務課長 中村 正次 医療サービス課長 金永 博行 感染制御部長 一山 智	総務課長 千葉 正勝 医療安全管理室長 松村 由美 医療情報部長 吉原 博幸 医療器材部長 上本 伸二
	保管場所	管理方法
診療に関する諸記録 各科診療日誌、手術記録、看護記録、検査所見記録、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	各診療科及び医務課	・平成19年9月より一部の診療科を除いて入院カルテは廃止し、入院中に発生した紙媒体の診療記録等データについては外来カルテの中に入院関係分として設けた区分の所に時系列に綴じ込んだ上で、1患者1カルテとして病歴管理室で保管。 ・外来カルテは、1患者1カルテであり、病歴管理室で保管。 ・電子化されたカルテ（入院及び外来カルテ）は1患者1カルテであり、電算機室で保管。 ・エックス線写真は過去5年（当該年を含めて実施6年間分）を病歴管理室内のフィルムスペースにて保管。なお、CT及びMRIフィルムについては平成21年12月7日（月）撮影分以降よりフィルムレス化となり、現物保管は行っていない。
エックス線写真	医務課	
処方せん	薬剤部	
病院日誌	総務課	
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	総務課
	高度の医療の実績	医務課
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	医務課
	高度の医療の研修の実績	総務課
	閲覧実績	総務課
	紹介患者に対する医療提供の実績	医務課
	入院患者数、外来患者数及び調剤の数を明らかにする帳簿	医務課・薬剤部
号規則掲げ第一一条の十一の確保の状況及び第九條の二十三第一項第一	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理室
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理室
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理室
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全管理の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理室
	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	総務課
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	総務課
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	総務課
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療サービス課

病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御部
	第一項各号及び第九条の二十三第一項第一号に掲げる体制の確保の状況	院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	医療器材部
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医療器材部
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	医療器材部
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療器材部		

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び
紹介患者に対する医療提供の実績

○ 病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	事務部長 加藤 健
閲覧担当者氏名	総務課長 千葉 正勝
閲覧の求めに応じる場所	総務課内

○ 病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0件
閲覧者別	医師	延 0件
	歯科医師	延 0件
	国	延 0件
	地方公共団体	延 0件

○ 紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	73.9 %	算定期間	平成22年4月1日 ~ 平成23年3月31日
算出根拠	A: 紹介患者の数	14,154人	
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数	10,917人	
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数	892人	
	D: 初診の患者の数	24,202人	

(注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

規則第1条の11第1項各号及び第9条の23第1項各号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有 ・ 無
<p>指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1. 病院の基本理念2. 院内の責任体制及び管理体制の明確化3. 安全管理のための各種委員会の設置及びリスクマネージャーの配置並びに医療安全管理室の設置4. 報告等に基づく医療に係る安全確保を目的とした改善方策5. 医療事故発生時における対応について6. 医療安全における大学間・病院間・地域間連携	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 11 回
<p>活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1. 医療事故を防止する方策の検討及び実施2. 医療事故防止マニュアル等の策定・改善・普及等3. 発生した医療事故又は発生する危険のあった医療事故等に関する情報収集及び分析並びに防止のための改善策の検討・実施4. 医療事故防止のための研修・講習・教育等の実施5. 重要事例の対応決定6. その他医療事故の防止に関する全般事項	

研修の主な内容：

【全職種対象】

- 平成22年6月4日「医薬品の安全使用のための研修会」
①「事例紹介」②「高濃度カリウム製剤取り扱い規定について」③「麻薬取り扱いに関する注意事項」
講師：本院医療安全管理室 長尾能雅室長 本院薬剤部 山田和司副部長 本院薬剤部麻薬掛 岡村みや子主任
参加人数：482名
- 平成22年7月27日「当院で経験した院内暴力について」
講師：日本大学医学部附属練馬光が丘病院 消化器外科 間崎武郎助教 参加人数：602名
- 平成22年10月26日「院内蘇生について2～身につけよう、有効な胸骨圧迫とAEDの使い方！」
講師：本学保健管理センター 石田拓助教 参加人数：467名
- 平成22年12月17日「医療安全におけるノンテクニカルスキルの重要性」
講師：大阪大学医学部附属病院 中央クオリティマネジメント部門 高橋りょう子副部長
参加人数：379名
- 平23年1月12日「内服薬処方せん記載に関する安全対策」
講師：厚生労働省関東信越厚生局 医療安全対策専門官 望月聡一郎氏 参加人数：467名
- 平成23年2月14日①「PDA使用に関する報告」②「抗がん剤取り扱いマニュアル」
講師：①本学医学研究科 杉山綾香 ②当院外来化学療法部 柳原一広副部長
参加人数：219名
- 平成23年3月9日「今、インスリン安全管理マニュアルを振り返る～チームで防ごうインスリンエラー～」
講師：本院糖尿病・栄養内科 濱崎暁洋助教 本院糖尿病看護認定看護師 大倉瑞代副看護師長
参加人数：215名
- 医療安全に関するビデオ上映会
・平成22年4月28日「医療安全への終わりなき挑戦～キーワードは全員参加」（平成20年8月29日開催分）
講師：武蔵野赤十字病院 矢野真医療安全推進室長 参加人数：32名
- ・平成22年4月28日「CVC合併症はもっと減らすことができる～東北大学病院の取り組み～」
(平成21年10月2日開催分)
講師：東北大学医学研究科 宮田剛講師 参加人数：44名
- ・平成22年4月28日「院内蘇生について～あなたは安心して院内で倒れられますか？～」(平成21年4月16日開催分)
講師：本院初期診療救急科 山畑佳篤助教 参加人数：32名
- ・平成22年7月6日「医薬品の安全使用のための研修会」（平成22年6月4日開催分）
参加人数：118名
- ・平成22年8月30日・31日、9月6日「当院で経験した院内暴力について」（平成22年7月27日開催分）
参加人数：225名
- ・平成22年12月21日「院内蘇生について2～身につけよう、有効な胸骨圧迫とAEDの使い方！」
(平成22年10月26日開催分) 参加人数：247名
- ・平成23年3月8日・9日・11日「内服薬処方せん記載に関する安全対策」（平成23年1月12日開催分）
参加人数：108名

【医師対象】

- 研修医内定者オリエンテーション
・平成22年4月1日 講師：長尾医療安全管理室長 参加人数：92名
- 新規採用医師安全研修会
・平成22年6月22日 講師：長尾医療安全管理室長 参加人数：63名
- ・平成22年6月28日 講師：長尾医療安全管理室長 参加人数：53名
- ・平成22年6月30日 講師：長尾医療安全管理室長 参加人数：41名
- ・平成22年7月12日 講師：長尾医療安全管理室長 参加人数：10名
- ・平成22年7月13日 講師：長尾医療安全管理室長 参加人数：11名
- ・平成22年7月14日 講師：長尾医療安全管理室長 参加人数：11名
- ・平成22年7月15日 講師：長尾医療安全管理室長 参加人数：8名

【看護師対象】

- 看護部新規採用者オリエンテーション
・平成22年4月6日 講師：足立看護師長（GRM） 参加人数：133名
- 看護部リスクマネージャー任命時オリエンテーション
・平成22年4月9日 講師：足立看護師長（GRM） 参加人数：3名
- ・平成22年4月14日 講師：足立看護師長（GRM） 参加人数：2名
- ・平成22年4月15日 講師：足立看護師長（GRM） 参加人数：1名
- ・平成22年5月21日 講師：足立看護師長（GRM） 参加人数：1名
- ・平成22年6月1日 講師：足立看護師長（GRM） 参加人数：1名
- ・平成22年6月2日 講師：足立看護師長（GRM） 参加人数：1名
- ・平成22年11月30日 講師：足立看護師長（GRM） 参加人数：1名
- 中途採用者研修
・平成22年7月1日 講師：足立看護師長（GRM） 参加人数：2名
- ・平成22年9月2日 講師：足立看護師長（GRM） 参加人数：2名
- ・平成22年10月1日 講師：足立看護師長（GRM） 参加人数：4名
- ・平成22年11月2日 講師：足立看護師長（GRM） 参加人数：1名
- ・平成22年12月1日 講師：足立看護師長（GRM） 参加人数：3名
- ・平成23年1月4日 講師：足立看護師長（GRM） 参加人数：5名

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有) ・ 無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 各種安全管理マニュアル・指針等の整備と運用状況のモニター、改訂作業 2. 安全に関する部門連携・委員会活動 <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療安全管理委員会の定期開催 ・ リスクマネージャー会議の定期開催 ・ 薬剤関連インシデント検討会の定期開催 ・ 安全管理室への研修医ローテーションの定期開催 ・ 各診療科RMとのインシデント検討会の定期開催 ・ 院内転倒転落事故防止委員会の定期開催 3. 職員への安全教育 <ul style="list-style-type: none"> ・ 講演会・講習会・ビデオ上映・院内事例報告会 ・ インシデントニュースの配信 	
⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	(有) (2 名) ・ 無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	(有) (5 名) ・ 無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	(有) ・ 無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 所属職員： 専任 (2) 名 兼任 (8) 名 ・ 活動の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療事故発生時の初動対応と事例調査 2. 各種安全管理マニュアル・指針等の整備と運用状況のモニター、改訂作業 3. 各部門からのインシデント・アクシデントレポート収集と、サーベイランス <ul style="list-style-type: none"> ・ 分析・対策立案 4. 医療安全に関する部門連携・委員会活動 5. 職員、学生などへの医療安全教育 6. 医療安全における大学間・病院間・地域間連携 	
⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じられる体制の確保状況	(有) ・ 無

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有 ・ 無
<ul style="list-style-type: none">・ 指針の主な内容：<ul style="list-style-type: none">・ 感染対策に関する基本方針・ 感染対策組織の概要・ 関連委員会及び会議の開催・ 感染制御部（ICT）の業務内容 教育、サーベイランス等・ 感染アウトブレイク（集団発生）時の対応・ 患者等に対する指針の閲覧に関する方針	
② 院内感染のための委員会の開催状況	年 40 回
<ul style="list-style-type: none">・ 活動の主な内容：<ul style="list-style-type: none">・ 感染症予防対策委員会 1回/月・ 感染制御部（ICT）会議 2回/月・ 感染対策業務会議 4回/年	

③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 22 回
研修の主な内容：	
○平成22年4月6日 職員対象講習会（新規採用者対象） 新規採用者に必要な感染対策の基本的知識・技術を習得する。	参加人数：140名
○平成22年4月8日 CLC (Clinical Laborfactory Conference) 京大病院における感染制御部の介入による診療の適正化	参加人数：29名
○平成22年4月22日 職員対象講習会（耳鼻科医師対象） 感染症診療の基本アプローチと抗菌薬適正使用について	参加人数：16名
○平成22年4月26日 職員対象講習会（リハビリテーション部対象） 感染管理の基本	参加人数：31名
○平成22年5月11日 第1回 全職員対象院内対策講習会 京大病院の院内感染対策について	参加人数：416名
○平成22年5月19日 ボランティア対象 院内感染対策講習会 感染管理の基本	参加人数：27名
○平成22年6月29日 第1回 感染対策業務会議 第2回 全職員対象院内対策講習会 2010年度の感染対策の重点項目について	参加人数：428名
○平成22年7月1日, 8月1日, 9月2日, 10月1日, 11月2日, 12月1日, 平成23年1月4日, 2月1日, 3月1日 中途採用者オリエンテーション 京大病院の院内感染対策について	参加人数：25名
○平成22年7月7日, 7月8日 職員対象講習会（看護補助者対象） 病院における感染対策 自分の身を守るために	参加人数：65名
○平成22年9月3日 職員対象講習会（医師・看護師対象） HIV勉強会 HIV母子感染予防における看護の実際	参加人数：52名
○平成22年9月21日 第3回 全職員対象院内感染対策講習会 結核の診断と治療において	参加人数：406名
○平成22年9月28日, 9月29日, 9月30日 職員対象講習会（看護師対象） 看護師対象レベルアップ講習会	参加人数：23名
○平成22年10月19日 第4回 全職員対象院内感染対策講習会 多剤耐性菌の現状	参加人数：381名
○平成22年11月22日 外注業者対象講習会 病院における感染防止	参加人数：15名
○平成22年11月30日 第5回 全職員対象院内感染対策講習会 HIV-1感染症/AIDS診療の実際	参加人数：373名
○平成22年12月10日 第6回 全職員対象院内感染対策講習会 事例から学ぶ感染性胃腸炎対策	参加人数：281名
○平成22年12月21日 職員対象講習会（病児保育室対象） 事例から学ぶ感染性胃腸炎対策	参加人数：5名
○平成22年12月21日 CLC (Clinical Laborfactory Conference) 京大病院における職業感染対策	参加人数：32名
○平成23年1月5日 CLC (Clinical Laborfactory Conference) 結核のお話	参加人数：49名
○平成23年1月11日 第7回 全職員対象院内感染対策講習会 感染症診療のための適切な細菌検査検体の採取方法	参加人数：351名
○平成23年1月21日 職員対象講習会（放射線部対象） 放射線検査時における感染対策	参加人数：15名
○平成23年2月10日 第8回 全職員対象院内感染対策講習会 感染症診療のロジック2011	参加人数：238名

④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況

・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有) ・ 無)

・ その他の改善のための方策の主な内容：

1、感染対策サーベイランスの実施

- ・ 薬剤耐性菌サーベイランス
- ・ カテーテル関連血流感染サーベイランス
- ・ 手術部位感染サーベイランス
- ・ 感染性胃腸炎サーベイランス
- ・ 上気道症状サーベイランス

2、職業感染防止と曝露後の対応

- ・ 針刺しの原因分析と防止対策
- ・ 抗体価の確認とワクチン接種
- ・ 曝露後の対応 (血液体液曝露、結核、麻疹、水痘等)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	(有) ・ 無																										
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 13 回																										
<p>・ 研修の主な内容： 医薬品での事故防止に係る本院職員の意識改革と安全管理、及び薬剤師としての資質向上のため次の通り研修会等を開催した。</p> <p>○全職種を対象 (医薬品の安全使用のための研修会) 日 時：平成22年6月4日(金) 17:20～ 1. 『高濃度カリウム製剤取り扱い規定について』 講演者：薬剤部 山田和司 副薬剤部長 2. 『麻薬取り扱いに関する注意事項』 講演者：薬剤部 岡村みや子 麻薬掛長 参加数：482名(医師、薬剤師、看護師、事務、その他)</p> <p>○薬剤師を対象 (医薬品の安全使用のための説明会) 新規採用医薬品の説明会を毎月開催し、新規採用医薬品の説明と位置付け及び添付文書改訂情報、安全性情報、医薬品の取り扱い等についての説明及び情報共有化を図っている。</p> <table border="1" data-bbox="181 840 670 1265"> <thead> <tr> <th>開催年月日</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>平成22年4月1日(木)</td><td>50名</td></tr> <tr><td>平成22年5月6日(木)</td><td>50名</td></tr> <tr><td>平成22年6月2日(水)</td><td>48名</td></tr> <tr><td>平成22年7月1日(木)</td><td>52名</td></tr> <tr><td>平成22年8月3日(火)</td><td>45名</td></tr> <tr><td>平成22年9月2日(木)</td><td>43名</td></tr> <tr><td>平成22年10月6日(木)</td><td>43名</td></tr> <tr><td>平成22年11月4日(木)</td><td>47名</td></tr> <tr><td>平成22年12月8日(水)</td><td>50名</td></tr> <tr><td>平成23年1月7日(金)</td><td>54名</td></tr> <tr><td>平成23年2月2日(水)</td><td>51名</td></tr> <tr><td>平成23年3月2日(水)</td><td>43名</td></tr> </tbody> </table>		開催年月日	参加人数	平成22年4月1日(木)	50名	平成22年5月6日(木)	50名	平成22年6月2日(水)	48名	平成22年7月1日(木)	52名	平成22年8月3日(火)	45名	平成22年9月2日(木)	43名	平成22年10月6日(木)	43名	平成22年11月4日(木)	47名	平成22年12月8日(水)	50名	平成23年1月7日(金)	54名	平成23年2月2日(水)	51名	平成23年3月2日(水)	43名
開催年月日	参加人数																										
平成22年4月1日(木)	50名																										
平成22年5月6日(木)	50名																										
平成22年6月2日(水)	48名																										
平成22年7月1日(木)	52名																										
平成22年8月3日(火)	45名																										
平成22年9月2日(木)	43名																										
平成22年10月6日(木)	43名																										
平成22年11月4日(木)	47名																										
平成22年12月8日(水)	50名																										
平成23年1月7日(金)	54名																										
平成23年2月2日(水)	51名																										
平成23年3月2日(水)	43名																										
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況																											
<p>・ 手順書の作成 (有) ・ 無)</p> <p>・ 業務の主な内容： 1. 医薬品の採用に関すること 2. 医薬品の購入に関すること 3. 薬剤部における医薬品の管理に関すること 4. 病棟・各部門への医薬品の供給に関すること 5. 外来患者への医薬品使用に関すること 6. 病棟における医薬品の管理に関すること 7. 入院患者への医薬品使用に関すること 8. 医薬品の適正使用に関すること 9. 医薬品の安全使用に係る情報に関すること 10. 他施設(医療機関・薬局等)との連携に関すること</p> <p>以上の業務内容について、平成23年1月6日(木)に手順書に基づく業務の実施状況を調査した。各病棟における調査者は病棟担当薬剤師とし、薬剤部内の調査者は各担当掛長とした。調査結果および改善が必要な点については改善指導等の実施状況を書面で報告してもらい、記録として保存した。</p>																											

④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有) ・ 無)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：
 - (1) 院内に新規採用された医薬品について、採用されてから6ヶ月後および1年後に採用依頼医師に「新規採用医薬品副作用予備調査票」を送付・回収し、院内で発生した副作用情報を収集している。
 - (2) 入院患者への薬剤管理指導を通して医薬品の安全使用のために必要な情報を収集している。そこで収集・解析した情報を、本院のチーム医療検討委員会による支援のもと、毎月薬剤管理指導検討会を公開し、院内各職種間を超えた情報の共有によって、医薬品安全使用の向上を図っている。
 - (3) 医療安全管理担当として副薬剤部長1名が兼任し、毎週開催される安全管理ミーティングにて院内の情報を収集、改善を協議すると共に、医薬品関連のインシデントレポートをもとに薬剤部内で毎月1回検討会を実施、業務改善の方策を立てると共に、情報を共有することで医薬品安全使用の質的改善を推進している。
 - (4) 京都府下の保険調剤薬局を対象として、京大病院薬剤部が医薬分業研修会を開催し、がん化学療法等について研鑽を積むとともに相互に問題となる情報を交換し、入院治療から外来治療に至るまで一貫した流れを作って、医薬品安全使用の向上を図っている。
 - ・平成22年9月12日(日) 午後1時～午後4時 115名出席
 - 場所 臨床第1講堂
 - (5) 処方・注射オーダーリングシステムに対し、インシデントレポートで提議された報告を基に薬剤誤投与防止機能を運用を含めて修正し、医療事故を未然に防止すると共に、必要なデータベースを構築し、維持・管理している。
 - (6) 全職員を対象に、アラートメールを通じた医薬品等安全性情報、緊急安全性情報等の配布、緊急通告や医薬品の採用・削除などの医薬品情報を配信している。
 - (7) 医師との連携により、外来の院外処方せん交付患者に対して初回投与時の抗がん剤の服薬指導を開始し、副作用等の説明及びその対処を指導する事で医薬品安全使用を推進することを可能とした。
 - (8) 本院のチーム医療検討委員会による支援のもと、チーム医療と関連業務についてカンファレンスを行い、院内各職種間を超えた情報の共有により、医薬品安全使用の改善を図っている。
 - ・平成22年10月7日(火) 午後5時半～7時
 - 場所 臨床第1講堂 「がんサポートチームの活動について」
 - ・平成23年2月1日(火) 午後5時半～7時
 - 場所 臨床第1講堂 「チーム医療に役立つKING5活用法」
(オーダーリングシステム等の解説を含む)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	有 ・ 無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 46 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成22年4月に新人看護師及び研修医を対象とした輸液・シリンジポンプの使用 方法について研修を実施 ・ 平成22年度中に計30回、医師・看護師・臨床工学技師を対象として人工呼吸器・ 人工透析装置・人工心肺装置等の使用方法、安全対策についての研修を実施 ・ 平成22年4月(1回)・7月(3回)・8月(2回)・12月(1回)・平成23年3月(1回)に診療放 射線発生装置等に対する医療機器安全使用のための研修を実施 ・ 平成22年5月(2回)・6月(1回)・7月(2回)・8月(1回)・12月(1回)に診療用高エネ ルギー放射線発生装置に対する医療機器安全使用のための研修を実施 	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 計画の作成 (有) ・ 無) ・ 保守点検の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ・ 各医療機器の点検周期に添って臨床工学技師による点検とメーカーによる点検を実施している。 →臨床工学技師の点検では、バッテリー・各種センサー・フィルター等の定期交換を実施している。 →メーカーによる修理の講習を受けた機器については簡易修理を行っている。 →高度な技術を要する修理はメーカーに依頼している。 ・ 放射線機器については点検実施計画を作成し、各部門担当者を決め定期的に点検 を実施している。 	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を 目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有) ・ 無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： <p>医療機器に関する安全性情報は医療安全管理室と協力して医療従事者に周知す る体制をとっている。</p> <p>医療機器の安全使用を目的として、中央管理機種の一統を推し進めている。</p> <p>医療機器関連のインシデント・アクシデント報告の周知と改善策の検討を行っている</p> <p>メーカー及び学会からの安全情報の周知とPMDAの医療機器情報の確認を行っている。</p> <p>医療機器の添付文章の現場確認と電子化を行っている。</p> 	